

JAグリーン近江管内での小麦収量向上対策

東近江農業農村振興事務所農産普及課

【普及活動のねらい・対象】

JAグリーン近江（以下、JAGと記載）管内の麦作は近年収量が減少傾向にあり、小麦の品質評価はBランクとなっています。そのため、JAGからの強い要望もあり、平成23年から小麦の収量向上対策をJAGと連携して取り組んでいます。対象として、JAG管内でも小麦の単収が低い地域（八日市南地区、日野地区）の代表的な営農組合（尻無営農組合・ファーム十禅師）を選定し、低収要因を改善するための対策について支援し、収量向上を図りました。

【普及活動の内容】

（１）対象の低収要因の把握

対象の現地巡回を定期的にも実施するとともに、展示ほを設置し、低収要因を調査しました。その結果、収量・品質向上に欠かせない排水対策の取り組みが十分でなく、収量が大きく減少した事例が見られました。また、播種量や資材の施用量も適量でないことも判りました。

（２）対象集落で「は種前栽培研修会」を開催

これまでJAGと連携し、土壌タイプ別の排水対策や緩効性肥料の効果などについて現地試験を実施しまし

た。その結果を取りまとめ、排水対策の実践を促すことを目的とした「小麦は種前栽培研修会」を平成24年10月に対象集落で開催しました。この研修会では過去2年間の現地試験結果を活用した技術指導（座学）と、排水効果が高く、省力的な機械体系による現地ほ場での実演会を実施しました。その結果、排水対策の重要性は理解していても、実践できていない対象集落の農業者に対して、改善への動機づけに有効であったと思われます。実際、参加者のアンケート結果からは排水対策の改善に向けて、本研修で提示した内容に取り組む意向が多く見られました。なお、この「は種前栽培研修会」に使用した資料は関係機関に配布し、管内各地の研修会等で活用できるように働きかけています。



写真）現地ほ場での実演会

【普及活動の成果】

対象集落では、「は種前研修会」後、平成25年産麦の播種作業が行われましたが、土壌条件に応じて明渠間隔を狭く取るなどの改善がみられました。その結果、12月現在の生育量は、収量向上に必要な初期生育の目安である莖数（300～400本/m²）を確保することができました。今後は、他の単収が低い地域を対象とし、排水対策の徹底と収量・品質向上を目指して、研修会でまとめた資料等を活用し、小麦の収量・品質の向上対策への取り組みを支援していきます。